〈６か月後の評価〉

●６か月後の評価は、通信等を利用して行う。

●継続的な支援の最終回と一体的に実施しても構わない。

⑥支援ポイント

●個別支援 A

基本的なポイント；５分 20 ポイント
最低限の介入量；10 分
ポイントの上限；１回３０分以上実施した場合でも１２０ポイントまでのカウントとする。

●個別支援 B

基本的なポイント；５分 10 ポイント
最低限の介入量；５分
ポイントの上限；１回 10 分以上実施した場合でも 20 ポイントまでのカウントとする。

●グループ支援

基本的なポイント；10 分 10 ポイント
最低限の介入量；40 分
ポイントの上限；１回 120 分以上実施した場合でも１２０ポイントまでのカウントとする。

●電話 A

基本的なポイント；５分 15 ポイント
最低限の介入量；５分
ポイントの上限；１回 20 分以上実施した場合でも 60 ポイントまでのカウントとする。

●電話Ｂ

基本的なポイント；５分 10 ポイント
最低限の介入量；５分
ポイントの上限；１回 10 分以上実施した場合でも 20 ポイントまでのカウントとする。

●e-mailA

基本的なポイント；１往復 40 ポイント
最低限の介入量；１往復

●e-mailB

基本的なポイント；１往復５ポイント
最低限の介入量；１往復

⑦留意点

（支援ポイントについて）

- １日に１回の支援のみカウントする。同日に複数の支援を行った場合、いずれか一つの支援形態のみをカウントする。
- 保健指導と直接関係のない情報のやりとり（保健指導に関する専門的知識・技術の必要ない情報：次回の約束や雑談等）は含まない。
- 電話又は e-mail による支援においては、双方向による情報のやり取り（一方的な情報の提供（ゲームやメーリングリストによる情報提供）は含まない）をカウントする。
- 電話又は e-mail のみで継続的な支援を行う場合には、e-mail、ＦＡＸ、手紙等により、初回面接支援の際に作成した行動計画の実施状況について記載したものの提出を受けること。なお、当該行動計画表の提出や、作成を依頼するための電話又は e-mail 等によるやり取りは、継続的な支援としてカウントしない。

（支援の継続について）

- 行動変容ステージが無関心期、関心期の場合は行動変容のための動機づけを継続することもある。

⑧積極的支援の例

ａ　支援パターン１（個別支援を中心とした例）

ｂ　支援パターン２（個別支援と電話を組み合わせた例）

ｃ　支援パターン３（電話、e-mail を中心とした例）

⑨特定保健指導支援計画及び実施報告書の例

⑩行動計画実施状況把握のためのチェックリストの具体的な例